出張報告

報告日 2025年2月7日

会派名	柏盛クラブ
報告者氏名	三宮 直人
種別	☐ 調査研究（ ☐ 行政視察） ☒ 研修会 ☐ 要請・陳情 ☐ 各種会議
用務	研修参加 ミライの議員・議会のために～コミュニティと地方議会からの政策サイクル～
日時	令和7年2月2日（日） 13時10分～17時30分
場所 （会場）	（公財）日本生産性本部セミナー室（東京都千代田区）
調査項目等	
概要	<p>【研修会概要】</p> <p>1.（講演）バックキャストिंगによる地方議会からの政策サイクル 議会改革の前史としては情報公開、議会中継、対面式議場、一問一答の導入。 以後、3つのステージ（局面）で議会改革を実行。</p> <p>① 最初のステージ</p> <ul style="list-style-type: none">・議会基本条例をつくり、住民参加、議員間討議、政策形成が大事とした。今では当たり前になりつつあるが、議会のイメージを大きく変えた。運営の仕方が変わった。・住民と歩む議会、質問の場だけでなく議員間討議の重視、追認機関ではなく政策競争する議会 <p>② 2つめのステージ</p> <ul style="list-style-type: none">・議会からの政策形成サイクルが2つ目の局面。・その運営を使って成果を出す、市民の幸せ、福祉の増進。・<u>当局がやってないことを調査研究し当局に提言する。達成状況を評価し公表し次につなげる。</u>・政策過程すべてに関わる議会、議論。総合計画がどこに表れているか。施策事務事業評価。<u>10月決算を2月予算につなげる。</u> <p>③ 3つめのステージ</p> <ul style="list-style-type: none">・第三の局面は議会と当局と住民の共同

2. (講演) コミュニティ自治の変容と未来の地方議会・地方議員

①未来の地方議会・地方議員とは

- ・議員はコミュニティリーダーとして地域づくりの先導・伴走・媒介役
- ・議会はコミュニティガバナンスの舵取り役として連携・協働の実質化

② コミュニティ自治を取り巻く課題

- ・コロナ禍でコミュニティ活動が消極化
- ・担い手不足の加速
- ・シビックプライドをもって取組む地域づくり
- ・新たな活動と旧来のコミュニティ活動との接続問題

③ 目詰まり問題の解消

- ・地方政治に対する住民意識の低下を言い逃れの口実にしない
- ・人材の循環が目詰まりしコミュニティ活動が動かない

④ コミュニティ自治の構造転換

- ・若者、女性、社会的弱者のコミュニティ活動への参画
- ・若い世代を軸に人材の好循環の形成
- ・若い人を巻き込むのではなく誘い出す、課題解決よりも楽しい場づくり

⑤ コミュニティガバナンスと議会

- ・コミュニティと議会は「合わせ鏡」。議会が変わればコミュニティは変わる
- ・コミュニティと議会をブリッジする人材の必要性
- ・コミュニティを議会の政策サイクルに投入できる環境整備

3. 実践報告

①長野県宮田村 「むらづくり基本条例」を住民参加で策定

(宮田村の概要) 人口 8400 人、面積 54.5 km²。長野県南部で北アルプスの麓、近隣自治体は伊那市、駒ヶ根市。主な産業は農業と工業。近年、住みやすさから(生活のための施設が自動車を使わずに行ける)移住者が増加中。議員数は12名、議会事務局は兼務で2名。

- ・住民、行政、議会がそれぞれで検討部会をつくり策定委員会を構成
- ・決算評価としては事務事業評価を実施。むらびと会議での村民の意見を踏まえ事業選定、意見聴取。

(むらびと会議とは)

議会の広報広聴活動における住民参加を不断に推進するため、「宮田村議会むらびと会議」を設置。村民の皆さまを委員として委嘱し、議会活動や議会の住民参加などに関する評価及び提言をお願いしている。

	<ul style="list-style-type: none"> ・議会評価として、むらづくり基本条例の議会関係条項について、むらびと会議で村民評価を実施。 <p>② 兵庫県西脇市 「議会は住民自治のプラットフォーム」 (西脇市の概要) 人口 38,000 人、面積 1 3 3 km²。兵庫県の中央部に位置し日本列島の中心で「日本のへそ」と言われる。主な産業はものづくり産業、製造品出荷額等は 900 億円。議員数は 1 6 名、政務活動費は一人当たり年額 4 4, 5 0 0 円。柏崎市議会広報広聴常任委員会の情報公開の検討においてモデルにした経緯がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティと議会の接点としては、市民との「議会と語ろう会（議会報告会）、活動団体との「課題懇談会」、コミュニティの一員としての議員がある。 ・議会と語ろう会で出た課題を課題懇談会で深掘りし、課題懇談会での結果を議会と語ろう会で報告。両会はクロスプラットフォームの関係。 ・議会報告会の中止議論があり改善。ターゲット層がいる場所に出かける、ワークショップ形式の導入、要望やクレームの背景を考えるなど。 ・3つの委員会で課題設定し所管事務調査として取組んでいる。 ・住民自治にとって議会はプラットフォーム。
<p>所 感 等</p>	<p>議会改革に関して前史から第 2 ステージまで進み、柏崎市議会は多くの取組みができていたことが確認できた。そして第 3 ステージの「議会と当局と住民の共同」による政策形成を進めるために相当な議論と行動が必要とも感じた。今回の研修で特に必要と思ったことは以下である。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 議会は当局がやらないことを住民と一緒にやる。 ② 10 月決算を 2 月予算につなげる。10 月決算では「街はよくなったか」、2 月予算では「街は良くなるのか」の視点で議論する。 ③ 市民との関りとしては西脇市のクロスプラットフォームの仕組み。 <p>上記 3 点について調査を進めていきたい。</p>